

## 5. 橋梁の計画的な補修

### 5.1 費用縮減策

橋梁は、腐食の予防のため定期的な塗り替えが必要となり、一般的には、10～15年程度の間隔で橋梁全体の塗装塗り替えを行っている。

歩道橋では腐食の進行が他の部材より早い箇所（階段と主桁の接合部、階段蹴上げ部、舗装面と主桁の接合部など）が明確である。このため、本区では、当該箇所について部分的な塗装塗り替えを行うことで、鋼材の腐食減厚による橋梁の性能低下を防ぎ、長寿命化を図るとともに、橋梁全体の塗装塗り替え間隔を長くし、計画的な塗装塗り替え費用を縮減している。（図-4 参照）

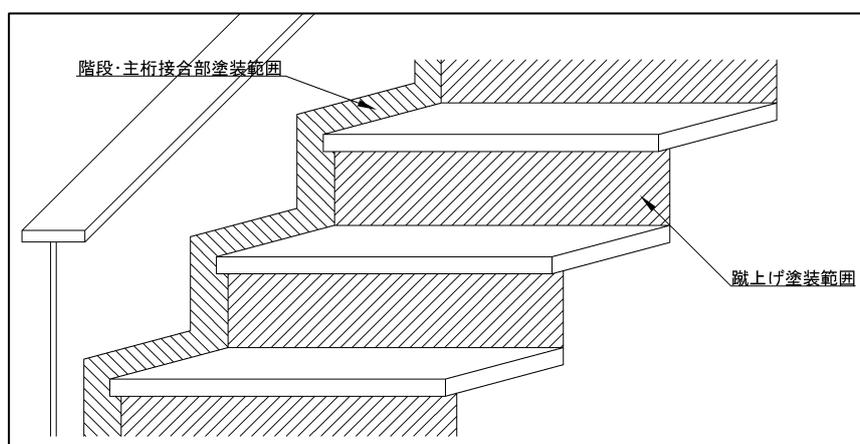


図-4 部分塗装範囲図（階段部）

加えて、近年、耐久性のよい塗装工法が多数開発されていることから、これら新技術を用いることで塗装間隔の一層の延伸を図っていく。

●橋梁全体 : 10～15年毎に全体塗装を実施



●腐食進行が早い箇所 : 20年に1回部分塗装を実施  
●橋梁全体 : 40年に1回全体塗装を実施

なお、今後の技術革新により、さらに耐久性の高い塗替え塗装工法が実現した場合には、これらの新技術を用いることで塗装間隔をさらに延ばし、より一層、費用縮減を見込んでいく。

